

内閣感染症危機管理統括庁ロゴマークについて

令和5年9月、感染症危機対策の司令塔機能を強化し、次の感染症危機に迅速・的確に対応できる体制を整えるため、内閣感染症危機管理統括庁（以下「統括庁」という。）が設置されました。今般、統括庁の存在・理念を内外にお示しするとともに、統括庁の扇の要としての役割を果たしていく決意を示すため、ロゴマークを制定しました（令和6年1月）。



【ロゴマークのコンセプト】

感染症危機管理を指揮する司令塔として、「扇の要（かなめ）」をモチーフとし、基調色には、「未来や知性」、「安全・安心」などを表す青色を使用しました。

統括庁の英文名称「Cabinet Agency for Infectious Disease Crisis Management」の略称である「CAICM（ケイクム）」が土台となっているのは、平時からの「万全の備え」を表しています。

濃淡がある2つの扇を立体的に配置することで、有事の際、扇の要である統括庁が、全体を俯瞰しつつ、「感染症対策」と「社会経済活動」の両立・バランスを「柔軟かつスピーディーに力強く調整」していく決意を表しています。

※ロゴマークに関するウェブサイトページ

<https://www.cas.go.jp/jp/caicm/logo.html>

